

保健体育科（体育）学習指導案（例）

日 時	平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇）第〇校時
場 所	第〇体育館
学 年 組	〇〇科２年〇、〇組〇〇名（女子〇〇名）
教科書等	保健体育（〇〇出版）
指 導 者	〇〇高等学校 教諭 〇 〇 〇 〇

１ 単元名 球技「ネット型」バレーボール

２ 単元の指導観

（１）一般的特性からみた指導観

バレーボールは、ネットをはさんで相対する２チームが、ボールが床に落下するか反則が生じるまで打ち合い、一定の得点に早く到達することを競い合う競技である。相手にプレーを邪魔されることはないが、ボールには瞬間的にしか接触できないため、ボールの扱い方とともにボールに触れない間のプレーが大きな意味をもつ。したがって、まずはボールをコントロールできる技能を身に付けさせることが必要である。また、ラリーを続ける楽しさ、さらにはラリーを切る楽しさを味わえるよう、仲間との連携を重視しながら、コート上の空間を意識した攻防を展開できるようにさせたい。

（２）学習者の実態からみた指導観

※生徒の興味・関心、学習態度、技能レベル等からみた指導観について記述する。

３ 単元の目標

- ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。バレーボールでは、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開する。
- ・バレーボールに主体的に取り組むとともに、役割を積極的に引き受け自己責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。
- ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。

４ 学習活動に即した評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
①自己の役割を果たし、チームの一員として貢献しようとしている。 ②仲間に積極的に声援やアドバイス等の声かけをしようとしている。 ③健康・安全を確保している。	①自己やチームの課題を把握し、タスクゲームが課題解決につながる練習となるようルールを工夫している。 ②自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。 ③作戦などの話し合いの場面で、合意形成をするための適切な関わり方を見付けている。	①味方が操作しやすい位置や高さに、ボールを送ることができる。 ②相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することができる。	①バレーボールの特性や攻撃の種類などについて具体例を挙げている。 ②ルールを理解し、試合の運営や審判の仕方について言ったり書き出したりしている。

5 指導と評価の計画

時	目標	学習活動	評価の観点				評価方法
			関	思	技	知	
1	バレーボールの特性や学習の仕方を理解する。	・オリエンテーション ・ドリルゲーム ＜技能の評価は、診断的評価として活用する＞			①	①	学習ノート 観察
2	健康・安全を確保して活動できるようにする。	・パス練習 ・ブロック練習 ・スパイク練習 ・パスゲーム（ソフトバレーコートを使用）	③				観察
3							
4	自己やチームの課題を見付ける。	・パス練習 ・ブロック・スパイク練習 ・簡易ゲーム（ソフトバレーコートを使用） ・個人での振り返り （練習や簡易ゲームを振り返り、自己やチームの課題を考える）		①			学習ノート
5 本時	自己やチームの課題をもとに、課題解決のためのタスクゲームを考える。	・ドリルゲーム ・タスクゲーム（ソフトバレーコートを使用） （生徒が自己やチームの課題に応じてルールを考える）		①			学習ノート 観察
6				③			観察
7				① ③			学習ノート 観察
8	仲間と連携して、コート上の空いている場所をカバーすることができるようにする。	・ドリル練習 （トス、スパイク、スパイクレシーブ） ・6人制ゲーム	②		②		観察
9							
10	味方が操作しやすい位置や高さにボールをコントロールする。	・スキルテスト ・ルール、審判法の説明			①		観察
11	役割を積極的に引き受け自己の役割を果たし、チームの一員として貢献できるようにする。 審判法などのルールを理解してゲームを行う。	・ドリルゲーム ・リーグ戦運営計画立案 ・リーグ戦に向けた練習試合	①				観察
12							
13	自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を考えて試合を行う。	・リーグ戦 運営は生徒が行う。 チームごとに作戦を考える。	①	②			学習ノート 観察
14			①	②			学習ノート 観察
15					① ②		観察

6 本時の指導（本時：15時間中の5時間目）

(1) 本時の目標

自己やチームの課題をもとに、課題解決のためのタスクゲームを考える。

(2) 見学者への対応

見学者の状況に応じて可能な役割を果たし、チームの一員として活動できるようにさせる。

(3) 学習指導の展開

段階	時間	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価
導入	10分	1 集合・整列・挨拶 チーム（1～6）ごとに整列 2 出欠確認・健康観察 3 本時の説明 4 準備運動 （ラジオ体操・ドリルゲーム）	・生徒の健康状況を把握する。 ・見学者への指示を行う。 ・本時のねらいと学習内容を説明する。 ・体育委員を中心にラジオ体操を行わせる。 ・準備運動も兼ねて、パスのドリルゲームを行わせる。

展 開	10分	5 グループ活動 ○タスクゲームのねらいと方法を考え									
		<table><tr><th>発問</th><th>予想される生徒の答え</th></tr><tr><td>サーブが入らない人に対するルールの工夫では、どんなことが考えられますか。</td><td>エンドラインを超えて前からサーブを打つ。</td></tr><tr><td>サーブが上手な人に対するルールの工夫では、どんなことが考えられますか。</td><td>工夫する必要がある。 サーブを打たないようにする。</td></tr><tr><td colspan="2">※発問を通して、視点を変えて考えると様々なルールが考えられることに気付かせる。</td></tr></table>	発問	予想される生徒の答え	サーブが入らない人に対するルールの工夫では、どんなことが考えられますか。	エンドラインを超えて前からサーブを打つ。	サーブが上手な人に対するルールの工夫では、どんなことが考えられますか。	工夫する必要がある。 サーブを打たないようにする。	※発問を通して、視点を変えて考えると様々なルールが考えられることに気付かせる。		
	発問	予想される生徒の答え									
	サーブが入らない人に対するルールの工夫では、どんなことが考えられますか。	エンドラインを超えて前からサーブを打つ。									
サーブが上手な人に対するルールの工夫では、どんなことが考えられますか。	工夫する必要がある。 サーブを打たないようにする。										
※発問を通して、視点を変えて考えると様々なルールが考えられることに気付かせる。											
	25分	・前時に個人で考えた「自己の課題」と「チームの課題」を仲間に伝える。 ・仲間の課題をもとに、本時のチームの課題（ねらい）を決める。 ・ねらいを達成するためのタスクゲームのルールを考える。（学習ノートに個人の意見を記入してからグループで話し合う） 6 タスクゲーム ○チームごとに考えたルールでゲームを行う。 ・チーム内でメンバーを2つに分けてゲームを行う。 ・2ゲーム行う。	・チーム全員が発言できるよう随時声かけをする。 ・ねらいを達成するためのルールであることを忘れないよう伝える。 ・全チーム統一ルール ①15点先取（時間によって変更可） ②バレーボールを使用 ③ソフトバレー用コートを使用 ・チーム内で、仲間へのアドバイスや応援、ハイタッチなどのコミュニケーションを多くとるように伝える。 ・ゲーム間等には、他チームがどんな工夫をしているか見るように指示する。 【思考・判断①】 自己やチームの課題を把握し、タスクゲームが課題解決につながる練習となるようルールを工夫している。（学習ノート・観察） ☆「努力を要する状況」の生徒に対する手立て チームの課題（ねらい）ができないのはなぜかということから考えさせる。また、ルールを工夫するための視点をいくつか助言する。								
ま と め	5分	7 片付け 8 整列・整理運動 9 まとめ ・本時の振り返り ・次時の課題 10 挨拶・解散	・チーム内で協力して片付けを行うよう指示する。 ・使った部位を意識させ、ストレッチを行う。 ・けがの有無、体調の変化に十分気を配る。 ・各チームのタスクゲームでねらいが達成できたか振り返らせる。 ・本時の振り返りを基に、次時もタスクゲームを考えることを伝える。 ・全員できちんと整列・挨拶をさせる。								